

SIMI 全体会合

「インパクト志向原則」について

日本ファンドレイジング協会



2017/7/27

インパクト志向原則WGこれまでの動き

- 第1回WG 6/5 インパクト志向原則とは？
参考となる他の原則、キーワード
- 第2回WG 7/6 インパクト志向WG紹介、
資金提供者WGの状況の共有、意見交換
- 第3回WG 8/1(予定)

「原則」ステークホルダー

■ 営利・非営利を問わず社会的課題に意欲的に取り組む団体（事業者）

「評価を実践」し、「評価を力に変え」、「組織の発展」、「課題解決力の向上」につなげる

■ 助成財団、ファンド、コミュニティバンク、NPOバンクなど資金仲介者、資金提供者

資金提供の際の目標や根拠を明らかにし、成果を生み出す事業や活動、評価の実施に資金を振り向ける「インパクト志向」を身につける

■ 中間支援組織

評価を力に変えていこうとする団体に寄り添い、評価の実践を支援するとともに、自らも評価の実践を支援する力を高める

■ シンクタンク、研究者など専門家

評価実践における知的基盤の構築を図るとともに、知識と実践の橋渡しという役割を担う

※SIMIロードマップver.1「期待される役割（想定読者）」より

ロードマップにおける「原則」

テーマ【1】文化醸成

テーマ小分類【1-1】事業者における文化醸成

【1-2】資金提供者における文化醸成

【1-1】 【1-2】 目標：

インパクト志向原則に賛同する事業者・資金提供者が、あらゆる地域・分野にて、全国で1000団体以上存在する。

アクションプランの概要：

【事業者】社会的インパクト評価に注目する非営利、営利を含む各種事業者がゆるやかなネットワークを形成し、お互いの取組から相互の学びが継続的に得られるような流れを作っていく

【資金提供者】財団、企業、金融機関、個人、行政を含む資金提供者自らが、資金提供者自身のインパクト志向のステップを定義することからはじめ、ゆるやかなネットワークを形成し、お互いの取組からの学びが継続的に得られるような流れを作っていく

協議のなかで特に重要と考えた3点

- ・社会的インパクト評価にもとづく事業報告は結果であり、それが作られる過程として「インパクトサイクルにもとづく事業運営」が実践されていること
- ・文化醸成には社会的インパクトを志向するあり方が、事業者・資金提供者のさまざまなステークホルダーによって異なることも想定し、これを包含して簡潔かつ明確に記した文書「インパクト志向原則」を確立・普及させることが必要
- ・資金提供者にとっての優先課題は、事業者に「社会的インパクト評価」を一方向的に課すことではなく、資金提供者自身も「社会的インパクト評価」の思考や実践を身に着けることである

※ SIMIロードマップver.1「ロードマップ作成にあたっての基本的な考え方」より

「原則」WGに関わるロードマップ上のアクションプラン

【事業者】（各種事業者によるインパクトサイクル（※1）に基づく事業運営の実施）

- ① 評価実践（社会的インパクト評価含め）のメリットを、活動分野、地域ごとに戦略性をもって普及する
- ② **事業者にとってのインパクト志向のステップを定義する**
- ③ 社会的インパクト評価にもとづく事業報告を普及させる

【資金提供者】（財団、企業、金融機関、個人、行政）

- ⑤ **資金提供者自身のインパクト志向のステップを定義する**
- ⑥ 資金タイプ（寄付、助成、投資、融資）ごとの社会的インパクト評価に対する考え方を整理し、関係者を巻き込む
- ⑦ 資金提供者自身の社会的インパクト評価にもとづく事業報告を普及させる
- ⑧ 社会的インパクト評価にもとづく助成金・交付金申請書を普及させる

【事業者&資金提供者】

- ④ **インパクト志向原則（※2）の立案・確立**

※1 「インパクトサイクル」：計画・実行・測定・レビューという事業運営のサイクルをまわすことによって、インパクトを拡大させる方法を特定する、改善方法を学習するなど

※2 「インパクト志向原則」：インパクト志向のあり方をさまざまなステークホルダーへの適用を想定して簡潔かつ明確に記した文書

SIMI Ver.1 「テーマ1 社会的インパクト評価文化醸成のロードマップ」

事業者にとってのインパクト志向のステップ定義（案）

➡ ② 事業者ネットワークWG未成立のため①原則WGで定義？

STEP 1

ロジックモデル/セオリーオブチェンジにより事業目標（インパクトゴール）及びステークホルダーが明確になっている

STEP 2

事業の主要なインパクト指標について、計測・収集、分析ができています

STEP 3

社会的インパクト評価を実施し、評価結果が経営戦略に反映されている

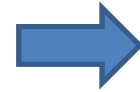
STEP 4

社会的インパクト評価に基づく事業報告を公開し、他の社会的インパクト評価に注目する非営利、営利を含む各種事業者のゆるやかなネットワーク形成に資している

STEP 5

自組織単体の事業実施ではなく、他の事業者との協働の中で事業インパクトの最大化が図られている

資金提供者にとってのインパクト志向のステップ定義（案）



③ 資金提供者ネットワークWGと要調整！

STEP 1

ロジックモデル/セオリーオブチェンジにより資金提供等により達成する事業目標（インパクトゴール）が明確になっている

STEP 2

自組織の事業目標達成のために最適なステークホルダーを特定し、資金提供等の連携ができています

STEP 3

資金提供先のインパクト達成度を把握し、必要に応じて柔軟な措置がとれている

STEP 4

資金提供による自組織の社会的インパクト評価を行い、結果が経営戦略に反映されている

STEP 5

社会的インパクト評価結果等を他の資金提供団体と共有し、インパクト志向の資金提供者のゆるやかなネットワークを形成し、ロジックモデルを取り入れた共通の申請書など、セクター全体での取組みに資している

STEP 6

より広範なインパクト実現のために効果的な方法を模索し、実行している